

『言葉の意味に思う-2』

前回（昨年9月）は、自分が正しくないと思っていた言葉の意味の捉え方が、実はそうではなかったというケースをいくつか取り上げて書きました。今回は、普段、見聞きする言葉で、違和感を覚えたり、「なるほどね」と納得したりしたケースを取り上げてみたいと思います。

一つ目が「人流」。気が付けば「人流」という言葉を使われることが目立ってきたなと感じています。もともとは「人の流れ」ではなかったかと。何か特別な意図があってこの変化があったかどうかはわかりません。ただ、「『人の流れ』では、ダメなのでしょうか？」と思うのです。後に「抑制」という言葉を合体させる場合は「人流」も有り得るかもしれませんが。

私、「人流」という言葉は、全くの新たな造語とばかり思っていたのですが、官庁では昭和時代から使われているとのこと。でも、一般的には使われていなかったと思うし、ただ単に「人の流れ」を「人流」に短縮しただけではなかろうかと推測しています。

では、短縮してメリットがあるのかと言えば、せいぜい表記する文字数が4文字から2文字へ、音にすると、6音から4音と少なく済むくらいでしょうか。この結果、「人の流れ」を使うより、少しだけ速く伝えられるだけの様な気がします。

ですが、私としては、この差程度であれば、「人の流れ」と言った方が落ち着きます。どうも「人流（じんりゅう）」という言葉の響きに違和感を覚えてしまいます。個人的な感覚でしかありませんが、「人流」は、人として扱っていないような印象を受けてしまいます。ついつい「物流」を連想してしまうのです（飛躍し過ぎているかもしれませんが）。

「人口（じんこう）」「人工（じんこう）」「人力（じんりき）」などは、社会生活上は定着していますし、きちんとした意味が伴った言葉ですから何ら違和感はありません。「人の流れ」を「人流」に短縮することは、少し無理があるのではないかと考えている次第です。

二つ目は「今の現状では・・・」。テレビを観ていると、時々この言い方に遭遇します。「現状」は、「現在の状態」もしくは「今のありさま」を意味します。ですから、現状の前に「今の」をつける必要はありません。これは、「机上の上に置きました」と似たような感じでしょうか。「今の」から始めるのであれば、「今の状況」とか「今の状態」という言い方になると思います。端的な言い方としては、「現状では」でいいのではと思っています。

三つ目は「難易度」の使い方。「難易度が高い」と、けっこうな頻度で聞きますが、その意味は「難しさが高い」だと思います。「難易度」の意味は、「難しいか、たやすいかの度合い」との説明がほとんどです。「入試の難易度」なら、合格の難しさとそうでない状況を意味し、この場合は「難易度が高い学校」であれば、なかなか合格しづらい難関校を意味し、「難易度が低い学校」は、入りやすい学校の目安を意味することになりますので、間違った使い方ではないと思います。ただ、この場合も、一般的には「難易度」よりも「偏差値」の方が広く使われています。

難しさの程度として使うのであれば、「難度」が適切だと思っています。体操競技やフィギュアスケートにおける技の難しさを表現する際、「難度が高い」とか「高難度な技」が使われています。このような表現を見聞きすると、私としてはとてもスッキリします。

四つ目は「肉汁」。「肉汁」の読みは「にくじゅー」です。「にくじる」ではありません。「果汁（かじゅう）」を「かじる」とは読みませんから。”と、ある新聞の記事に書いてありました。私は、この記事を読んでからは、“「にくじる」と言っているのは間違い”であり、意識して「にくじゅー」と言っていました。「にくじゅー」で通そうかと思っていましたが、念のため調べてみたところ「へえ。そうなんだ！」となりました。

ある放送文化研究所の「ことばのゆれ調査」によりますと、「肉汁」を「ニクシル」と読むと答えた人が7割を超えたそうです。この結果を受けて、2001年2月に開かれた放送用語委員会では「1. ニクシュ 2. ニクシル」と決め、「ニクシル」についても認めることになりました。ただ、本委員会では「第1・・・」「第2・・・」と示す場合は、第1の語形をまず推奨されるので、放送現場では、なるべく伝統的な「ニクシュ」という言い方・読み方をするようにしているとのこと。（※引用記事の表記に従い、読みがカタカナになっています）

テレビのグルメ番組で、しばしばレポーターの方が「うあ！見てください。このにくじる！」などと言っている場面を観るたびに、私は「ちがう！にくじゅーだ！」と心の中で指摘していましたが、「その言い方も有りね」と受け入れることにしました。

五つ目は「リスペクト」。これは英語の respect からくるカタカナ語で、よく耳にするようになりました。概ね「尊敬する。相手を重んじること。心服し敬意を表すること」と説明されています。テレビやラジオの放送で、出演者の皆さんが時々使われているように感じています。ただ、そもそもの日本語があるので、「私は〇〇をリスペクトしています」と言う必要はないのではと思っています。普通に「尊敬しています」や「尊重しています」や「敬意を表します」で十分伝わります。

少し話が逸れますが、今夏の東京五輪柔道男子で優勝された選手のコメントはとても印象に残っています。その選手は、優勝が決まってもガッツポーズを取ることもなく、淡々とした表情で終わりの礼をして試合場を降りインタビューを受けました。そこで、「勝ってガッツポーズをすることは、負けた相手をさらに追い込むことになる。そこまではしない」と。私は、この選手の人を思いやる態度や敬意を払う姿勢に大変共感しました。

最後に、令和元年度 文化庁の「国語に関する世論調査」の結果からです。

「前に負けた相手に勝つこと」を表したい言い方として、「雪辱を果たす」と「雪辱を晴らす」のどちらを使うかという問いに対して、「雪辱を晴らす」を選んだ方が50.5%。「雪辱を果たす」を選んだ方が38.3%。

辞書等で主に本来の言い方とされてきたものは、「雪辱を果たす」です。私は、「うーん。どちらも良さそうな・・・」と迷ってしまいましたが・・・。そもそも「雪辱」の意味が、“「辱（はじ）を雪（すす）ぐこと」だそうです。ですから、「雪辱を晴らす」は、同じ意味の語を重ねて使ってしまうことになるので、誤用ということになるそうです。「晴らす」を使う言い方としては、「屈辱を晴らす」とか「恨みを晴らす」になります。怪談などで「この恨み晴らさでおくべきか〜」というシーンを思い出し合点がきました。